

2025 年 10 月 20 日

梶山モンテッソーリスクール 50 周年記念パーティのお礼とご報告

鶴見幼児教育研究所附属
梶山モンテッソーリスクール

9 月 6 日（土）は、前日の大雨から一転、快晴のみなとみらいで多くの皆さまにお集まりいただき、梶山モンテッソーリスクールの 50 周年を一緒にお祝いすることができ、本当に感慨深い一日となりました。

これまでの 50 年、そして今もなお、スクールが歩みを続けてこられたのは、保護者の皆さまをはじめ、多くの方々の温かい支えがあったからこそだと改めて感じる時間となりました。

また、この素敵な会のために、1 年以上も前から準備を進めてくださった皆さま、本当にありがとうございました。おかげさまで、思い出に残るとてもあたたかい会になりました。

そして当日は、心に残るお話をしてくださった皆さまのスピーチを改めてご紹介させていただきます。

□来賓祝辞

東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター代表

国際モンテッソーリ協会公認教師養成トレーナー 三浦勢津子先生

本日はこのような素晴らしい会にお招きいただき、心より光栄に存じます。東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンターを代表し、また百寿を迎えた恩師、松本静子に代わりまして、お祝いの言葉を述べさせていただきますと思います。

昨日は台風の影響により大雨が降っていましたが、本日はこのような快晴。神様に祝福された梶山モンテッソーリスクールの五十周年記念、そして未来への希望を感じております。

我が国でのモンテッソーリ教育の本格的な幕開けといえば、梶山モンテッソーリスクールの創始者である川村洋子先生のお父様である鼓常良先生がマリア・モンテッソーリの著書を翻訳してくださったことにあります。川村祐一先生・川村洋子先生が、この関東の地で、イタリアで教師養成資格を取得した恩師・松本静子と協力しながら、国際基準のモンテッソーリ教育の実践を始められたことに、今、改めて思いを馳せます。そのような先駆者の苦労があったからこそ、今の日本のモンテッソーリ教育があると、矜持を正す気持ちでございます。

この五十年間、梶山モンテッソーリスクールは常に私たち東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンターの実習園として日本で最高の質を保つ、本物のモンテッソーリ教育を真摯に実践し続けてきました。梶山モンテッソーリの先生方は、大変、勉強熱心です。0 歳か 1 2 歳の全てのレベルのモンテッソーリ教育を積極的に学び、先生方の知識や実践に統一感があります。

実習でお世話になっております学生のレポートの感想に、「本物のモンテッソーリ教育を見せていただいた」「先生方の謙虚で真摯な子どもへの向き合い方からたくさんのことを学ばせていただいた」「自分で活動を選び、集中を見せる子どもたちの姿に感動を覚えた」という言葉を読ませていただいております。

研修や講演会に積極的にご参加なさり、モンテッソーリ教育を学び続ける、先生方の姿勢を心からご尊敬申し上げ、このような努力を重ねた実践があつてこそ、日本のモンテッソーリ教育が未来に向かって進化していくと実感しております。

河田先生はじめ梶山モンテッソーリスクールの先生方は、モンテッソーリ博士が語った「謙虚な教師」「子どもの自分で自分を育てる力を援助できる教師」「専門知識をもって、子どもの精神に仕える教師」です。

そのような先生方が心をこめてご準備された環境で、自分が自分らしく伸びていける子どもたちが私たちの未来を切り開いていってくださると思うと、本日の晴れ晴れとした、秋の爽やかさと落ち着きを感じられる青空に似た希望を覚えます。

保護者の皆様、卒園生の皆様、先生方、川村洋士様、オブランダー祐子様、本日はおめでとうございます。梶山モンテッソーリスクールのますますのご発展をお祈り申し上げ、私の拙いお祝いの言葉をしめらせていただきます。

□記念スピーチ 「梶山モンテッソーリスクール 50 年の歩み」

オブランダー祐子先生 Oblander, Yuko Kawamura

梶山モンテッソーリスクール前園長・川村洋子（ひろこ）先生、理事長・川村祐一先生の長女。

3 歳～6 歳の教師資格を松本静子先生のコースで取得、梶山モンテッソーリスクールに勤務、その後 6～12 歳の教師資格を北イタリアベルガモで取得。梶山モンテッソーリスクール勤務に戻り、放課後の小学生クラスをしばらく開く。盛岡白百合学園小学校から要請があり、モンテッソーリ教育を小学校で取り入れるために、小学生に英語を教えながら、小学校の教師たちにモンテッソーリ教育の導入をする。梶山モンテッソーリスクールには合計 5 年ほど勤務。（1991 年から 1992 年は長男が 1 歳から 2 歳の時に教師が足りず、ピンチヒッターとしてポートランドから子連れで戻り勤務）ポートランドでも 2 年間モンテッソーリ・スクールに勤務。その後夫が始めていた日英の翻訳の仕事に協力するようになり、翻訳を仕事にする。現在、アメリカ・オレゴン州ポートランド在住。

初めに、祖父の鼓常良がどのようにモンテッソーリ教育に巡り合ったのかをお話しします。

私の母、川村洋子の父、鼓常良は、ドイツ文学と美学が専門で、名古屋の第八高等学校、戦後は、大阪市立大学文学部で教えました。1952 年に京都の桂に家を新築して引っ越しました。その後、祖父の常良が退職して間もない頃に祖母の声子を通して、声子が所属していた桂教会の牧師から経営難になっていた保育所経営を頼まれました。その保育所は祖父母の自宅のすぐ近くにありました。退職金があったのでその経営を肩代わりすることにしたそうです。

幼児教育については、常良は知識も経験もありませんでした。声子は 17 歳の時に日本の近代児童文化の基盤を築き上げたパイオニアといわれる久留島武彦の幼稚園で助手をした経験がありました。

しかし、常良は自分が園長になるのだから、何らかの知識が無ければならない、と思いました。いつも自分の専門のドイツ語の本を取り寄せていた書店に、「近頃注目を浴びている幼児教育の本を見計らって送ってほしい」と注文しました。その中にモンテッソーリ女史の「幼児の秘密」のドイツ語訳がありました。「これを読んで 70 歳であった私は、第二の人生に入った。」と、常良は書いています。声子は 60 歳近かったのですが、簡単に保母試験に合格し、給食のために調理師資格も取りました。久留島武彦氏の子供向きの話術を取得しており、幼児の保育には天賦の才能もあったようで、子どもたちにとっても喜ばれたということです。常良の方は、モンテッソーリの他の著書をヨーロッパで探させても、入手できずにいましたが、そのうちインドから英訳本が取り寄せられることを知り、次々と読んで益々感銘を受け、どうしても渡欧して「子供の家」を見て来ないではいられない気持ちになったそうです。

そこで、常良は妻の声子に対しては、古い約束の履行の気持ちもあって、夫婦で約 3 か月渡欧する計画を立てたそうです。＜古い約束というのは、常良が、声子と交際している頃に「一緒にヨーロッパへ行こう」と言ったことです。＞声子は、「今更ヨーロッパに行って何になる」と一旦は拒否したそうですが、夫の古い約束の履行という心持にも気づいて思い直し、賛成したそうです。渡欧は、まだ一般的ではなかった 1963 年のことでした。アムステルダムで AMI 本部を訪ねたり、ヨーロッパの各地で子どもの家を見学したそうです。

[梶山モンテッソーリスクールについて]

1972年に洋子の母の声子が亡くなりました。その後の1973年ごろでしょうか、洋子の父である鼓常良が、京都から鶴見区梶山の家を訪ねました。常良は、モンテッソーリの3部作「幼児の秘密」「子どもの心」「子どもの発見」を翻訳した、戦後のモンテッソーリ教育普及の先駆けでした。梶山の家を訪ねた時に、常良は、「ここでモンテッソーリ子どもの家を開いたら良い」と勧めました。（私はその時のことを覚えています。祖父は梶山の家の中を回って見て、兄の部屋と私の部屋を見てから、「この二部屋に教師が滞在することができたら、とても便利だ。」というようなことを言いました。私は、高校生の孫たちが住んでいる部屋なのにそのようなことを言われて、とても驚いたことを記憶しています。）このように、祖父はかなり浮世離れしたところがある人でした。その分、祖母がかなりの穴埋めをしていたのだと思います。

その時、洋子は幼児教育は専門外ですし、躊躇したそうです。けれども、夫の祐一がその気になり、自分が後ろ盾になるからと言って、モンテッソーリ教育の理念とその志を受け継いで、モンテッソーリ子どもの家を始めることになりました。そして、1974年に自宅に2階を増築して、「梶山子どもの家」を設立し、洋子が園長になりました。けれども保育の経験があるわけではないので、日本モンテッソーリ協会の教師養成コース（上智のコース）で資格を取った教師に来てもらいました。ほどなく、洋子は自分が勉強しなければならないと気づき、その当時、京都で常良が開いていた週末のモンテッソーリ教師養成コースに通い始めました。頑張っただけで勉強していましたが、難しいところがありました。丁度その頃に松本静子先生が帰国されて、東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンターを開設なさいました。幸い、洋子は、その一期生として学ぶことができました。そして、1976年にモンテッソーリ教師の国際資格を取ることができました。

父の祐一は会社に勤めながら、梶山子どもの家（後に梶山モンテッソーリスクールに改名）の経営者として会計、書類制作、入園希望者への対応などの事務処理をしていました。また、スクールのお便りのためにモンテッソーリ教育に関することを交えて原稿を書いていました。（内容がちょっと難しかったことを覚えています。）会社を退職してからはスクールの仕事に専念し、卒業生が訪ねて来ると喜んで写真を撮って、それを後から卒業生たちに送ったりしていました。子どもたちと触れ合うことで父も母も晩年になっても気持ちは若く、元気に過ごしていたようです。

父は2010年に倒れてからは、仕事はできなくなりましたが、2015年12月までは元気に過ごしていました。母は2016年ごろまではそれなりにスクールで働いていましたが、健康問題があつて徐々に子どもたちのお仕事は減らしていきました。けれども、2019年の7月ごろ（1学期）までは、スクールでピアノを弾くことは続けていました。1976年に資格を取ってから、モンテッソーリ教育の実践に40年以上専心しました。

また、2021年からは1歳半から2歳半のIC（Infant Community）のクラスを開設しました。教具は、この年齢の子どもたちに適切であるように用意されていて、それを見て私はとても感心しました。ICクラスから上がって来るお子さんたちは、とてもスムーズに上のクラスに馴染むことができるそうです。

卒業生の保護者の河田敏子先生は2001年から約24年間、卒業生である重田雅子先生は2003年から約22年間梶山モンテッソーリスクールで勤務してくださっています。雅子先生は、桃組さんで入園した私の教え子です。今は勤務していらっしゃいませんが、もう一人、卒業生の保護者である小林ちえこ先生は23年間勤めてくださいました。現在も、敏子先生と雅子先生を始めとする職員の皆さまのお蔭で、スクールを続けることができます。本当に感謝しています。

モンテッソーリ教育の実践はかなり難しく、名前にモンテッソーリが入っていても、実践のレベルは様々です。その中で梶山モンテッソーリスクールでの実践は、とても良い評価を受けています。最近、預かり保育で卒業生のお母様方による料理、英語、アート、習字、そして、専門の方による音楽（リトミック）、日本舞踊も行っています。モンテッソーリ教育で育った/育っているお子さんたちと保護者の方々は、梶山モンテッソーリスクールとのつながりが深く、とても協力的で、預かり保育で教えてくだ

さったり、庭の手入れやペンキ塗りなどの時にも手伝ってくださっています。このように卒業生たちと父兄が、卒業後もスクールと繋がりを保っているコミュニティであり、それはとても素晴らしいことだと思います。

50 周年（厳密には 51 周年）を迎えて、梶山モンテッソーリスクールの卒業生はおよそ 500 名となりました。卒業生のその後については、河田敏子先生がお話ししてくださいます。これからも、梶山モンテッソーリスクールの伝統を維持していくことができますように願っています。

□卒業生代表スピーチ

「今の私、これからの私」 38 期卒業生の花木ひとみ様

ただいまご紹介に預かりました、38 期卒業生の花木ひとみです。本日はこのような貴重なお時間をいただきまして大変嬉しく思っています。そして創立 50 周年おめでとうございます！園から「今の私、これからの私」というテーマをいただきましたので、私自身の歩みを振り返りながらお話しできればと思っています。

現在私は慶應義塾大学法学部の一年生で政治学を専攻しています。私は紛争や貧困、飢餓や感染症と日々戦っている子供達をまずは日本からサポートする人材になりたいと考えているので、将来は、政治学の中でも国際関係学や国際政治学について法的な観点から研究したいと考えています。このようにお話しすると非常に難しいことのように感じられるかもしれませんが、ですが私が先ほど述べた将来像の根底、さらに受験を乗り越えるために必要な様々なことの根底には、梶山モンテッソーリスクールで培った多くの力があります。

大学に入学するためには受験というプロセスは必須です。ですがどんな受験形態であっても、常に受け身の姿勢で積極性や自立性を欠いていたりすれば思うような結果は出ないかもしれません。私が受験期を乗り越えられたのには、モンテッソーリの教育法が幼少期の頃から身についていたからだと考えています。

例えばそれは、その日に幼稚園で何をするか、どのお仕事に取り組むのかについて、自主的に選択し決断するということから始まります。そして何よりも、選んだお仕事を最後までやり遂げる力は、モンテッソーリでしか習得できない特別なものであると思います。もちろん、幼稚園での日課の中に集中力を養うプロセスがあったことも忘れてはなりません。それは線上歩行をすることや、お仕事に取り組むときには皆で集中する雰囲気を作るということに象徴されています。本来であれば、小学校入学後に集中的に身につけていくであろう力を幼稚園の頃から習慣化していくということそのものが、私たちの人生における財産だと言えるでしょう。

そしてもちろん、私たちの人生は受験で終わりではありません。むしろ受験を終えてからが本番だと言えます。梶山モンテッソーリスクールのお仕事の中には、数の棒や五十音順に言葉を並べるなどの思考力を養うものがありました。そして日本地図や世界地図を制作するなどの地理や文化を学ぶもの、さらには対称図形を粘土で作るなどする立体認識能力や創造力を育むものも多くありました。

初めに私が述べた将来像を、頭の中で思い描けたことも、梶山モンテッソーリスクールで身につけた思考力や想像力があったからこそだと思います。私たちが生きる現代社会においては、自分が何をしたいのか、自分がどう社会に貢献できるのかについて自ら考えることが常に求められています。そんな社会の中で、幼い頃から思考力や主体性を身につけられたことは必ず私たちの一生の宝物になることと思います。

これらだけでも非常に貴重な経験ですが、梶山モンテッソーリスクールでは人間性の面でも多くを学ぶ機会がありました。そのうちの一つが人との関わりです。まだ幼いうちは他者に注意を向けることは簡単ではなかったはずですが、日々過ごす中で少しずつお友達との良い関係性を構築できるようになりました。常に周囲に目を配り配慮し、ともに喜ぶということは最も基本的なことでありながらも、非常に難しいスキルです。ですが、例えば縦割り教育で幅広い学年の子と協力して何かを成し遂げるなど、

互いに喜びや困難を分かち合うことを通して、他者との関係を構築できるようになりました。このことは、幅広い世代、多様なバックグラウンドを持つ方と今後関わっていくに当たって、非常に大切ですしなくてはならないものです。

さらに、梶山モンテッソーリスクールは情操教育も重視している園です。例えばそのうちの一つに、音楽があります。私たちの頃は、お弁当を食べる前に川村洋子園長先生がショパンの楽曲をピアノで弾いてくださいました。日常生活に音楽が溶け込んでいる幼稚園での日々は非常に貴重ですし、私たちの芸術性を豊かにしてくれました。だからこそ、私は小学校から習っていたピアノと書道をやめずに約10年間続けることができたと思います。

また他の多くの幼稚園と異なる点のうちの一つに、キリスト教に基づいた教育があるということも無視できません。幼いうちは、明確な宗教観は無いとはいえ、隣人愛に代表されるキリスト教ならではの考え方を少しずつ学ぶことで将来にもつながる人格形成に非常に大きな役割を果たしたと考えます。このキリスト教に基づく教育があったからこそ、私は将来困っている子どもたちを助けたいと心から思うようになりました。

最後になりましたが先生方、まだ幼い私たちに人生を通して生き抜く力を授けてくださり本当にありがとうございました！今の自分がかつて思い描いていた理想の自分とは違っていたとしても、幼稚園で学んだことが、思いがけない形でのちに生きていくことを私は今までに多く実感してきました。これからも梶山モンテッソーリスクールで培った力を最大限に活かしながら社会に貢献できる人材として活躍できるよう、日々努力してきたいと思います。

最後までお聞きいただきありがとうございました！

□園長スピーチ

「卒業生のその後をアンケートから読み解く」 園長 河田敏子

梶山モンテッソーリスクール 50 周年記念パーティー約 5 年前に子先生が亡くなられてから梶山モンテッソーリスクールの園長をしております河田敏子でございます。施設長の洋士先生や優秀で愛情あふれる職員の方々、そしていつも理解をしめしてくださる保護者の皆様に支えられ、までようやくたどり着くことができました。

本日は、恩師であります東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター代表の三浦勢津子先生をはじめ、祐子先生とパトリックさんご夫妻、歴代の教職員、そしてたくさんの卒業生や在園児とその保護者様、園関係者の皆様のご参加をいただき、このような盛大なパーティーを催すことができて心よりの感謝と喜びでいっぱいです。さて、本日私がいただいたテーマは、「卒業生のその後をアンケートから読み解く」です。その前に 1 冊の本をご紹介します。文芸春秋 2004 年発行、相良敦子先生著書「お母さんの工夫」です。相良先生の著書に出会い、モンテッソーリ教育に興味を持たれた方はたくさんいらっしゃるのではないかと思います。実は、今から 25 年ほど前

に、相良先生の研究のサンプルとして依頼をうけ、梶山モンテッソーリスクールを卒園させた保護者の方々がたくさん文章を寄せました。私も含め、この会場にたくさんおられると思います。梶山モンテッソーリスクールと卒業後の姿が、「お母さんの工夫」に紹介されているのです。「モンテッソーリ教育の備えるべき条件がすべて整っているばかりか、精魂込めた努力で脈々とつみあげられてきた尊い実績が息づいています。ある意味で、日本におけるモンテッソーリ教育の代表的な実践校なので卒業生は特別だといえるかもしれません。」という記述があります。人格・生活・学習・仕事・人間関係の側面から望ましい姿がみえてきたと書かれてありました。

この度、卒業生についてのアンケートをいただき、よくよく読ませていただきましたら、相良先生の 20 年前のこの本の内容とほとんどかわらない結果がみえてきました。「自分で判断し自分の責任で行動する」「自分の考えをしっかりとって揺らがらない」「一人でのんびりするのも大好き」「生徒会・部活・学校行事のリーダーになる」「好きなことへの集中力が半端ない」「粘り強い」「環境の変化に強い」「失敗をおそ

れない」「向上心がある」「友達にやさしく、相手の立場を認め仲良くできる」「人のお手伝いが上手である」子どもの成長は、時を超えて国を超えて、普遍的なものでありますが、モンテッソーリ教育を受けて育った子どもたちの特徴も変わらないということがわかりました。その後の相良先生の全国にわたる調査でも、同様な傾向がみられたことを付け加えておきます。

アンケートの中からおもしろいエピソードを一つご紹介しましょう。小さいときから日常生活の練習をたくさんやってこられた方は、さらに高みに登れるという良い例です。「現在大学2年生です。娘の転機は中3のコロナ禍でした。コロナで中3の始まり3か月が休校になり、毎日大好きな料理を作ってすごしていました。メニューを自分で考えて、3か月毎晩夕食をつくってくれました。ところが、休校開けて学校が始まったら、周りが受験モードに入っていることを肌で感じ、そこから急に受験のスイッチに切り替わりました。好きなことを好きなだけ、とことんできたことで、苦手だった勉強にスイッチが入り、実写版ビリギャルのような急成長をとげました。料理も勉強も親は何も干渉していませんが、自分で道を切り開いていく様子にモンテッソーリ教育で培われた力が開花していくのを感じました。」さて、卒業生の半分以上はすでに社会人です。教育福祉関係は多く、保育士・小学校教員・高校教員 医療分野では、医師・歯科医師（園の歯科検診を卒業生が担当してくださっています）・看護師・薬剤師 芸術では、演劇関係 音楽大学にいかれた方が多いのは、ひろ子先生の影響かもしれません。編集者・エンジニア・IT 関係また、各企業においてなどなど、それぞれがやりたい道を進んで活躍されているようです。国内外の修士課程博士課程で学び続けている人たち、父親母親となり、家庭を守りながら、仕事との両立を果たしている方々など、それぞれがさまざまな苦勞を乗り越えながら、なりたい自分をめざして生きている様子がわかりました。しかし、その陰にご両親のお子様の成長を信じて見守る深い愛情をアンケートの中に感じたしだいです。仮に、現在、困難の渦中にある方がいたら、立ち上がれる日が必ず訪れると信じます。

鼓先生は、戦後の日本を変えていくには、未来をつくる子どもたちのための幼児教育が大切だと、考えました。ちょうど戦後 80 年がたち、日本の教育は、個人を尊重する方向に変わってきたかもしれません。しかし、生命の法則により内在する自然のプログラムに従って子どもは、成長することをどのくらいの大人が認識しているのでしょうか。そうすることにより、教育の在り方が、教え込むのではなく、子どもが主体となり自らわくわくしながら学び取っていくことこそ子どもの幸せであると気がつくでしょう。500 人に及ぶ素晴らしい卒業生をおくりだすことのできた実績を糧に、モンテッソーリ教育をさらに世に広めて参りたいと思います。どのようなイデオロギーに傾いても、正しい判断のできる大人になって、真に平和な日本、そして平和な世界の実現を、人類の宝であり希望である子どもたちにたくしたいと思います。本日は、皆様のお気持ちに深く感謝しつつ、今後ともにご支援をいただければと切に願います。ご来場の皆様、実行委員の皆様、心からありがとうございました。